

演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302

必修 2単位

古市 将人

1. 授業の概要(ねらい)

卒業後、どのような進路を選ぼうとも、ある問題を調査し、その結果を報告書として提出し、または人前でプレゼンテーションをする機会に遭遇する。本演習では、最終的に参加者が自分の関心のあるテーマを選び、文献調査や資料収集を通して、自らの問題関心を深める能力を構築することを目標としている。諸問題に関して理解を深めながら、調査能力、分析能力、結果の整理・発表の能力を身につけていくことがこの演習の目的である。以上の能力を身につけるために、本演習では、文献の輪読や資料の読解を行う。担当教員は、財政学、とくに財政と福祉の関係を研究している。そのため、基本的に、日本財政や地方財政に関する問題を取り上げる予定だが、参加者の問題関心に沿って柔軟に演習をすすめていく予定である。

秋学期は、個人発表などを通じて、資料の作成、プレゼン、レポートの書き方等を学んでもらう。

秋学期の課題

●個人報告：自分で好きなテーマを設定し、それに関する勉強や調査を行い、その成果を発表する。担当教員に、各種の資料等を用いて「その問題の重要性を説明できる」のであれば、基本的にテーマは自由に決めることができる。

2. 授業の到達目標

- (1)他の人と協力して調査研究を行い、その成果を報告できる。
- (2)公的な統計・資料を収集し、特定のテーマについて調査することができる。
- (3)規定の様式に従ったレポートを執筆し、その内容を報告できる。

3. 成績評価の方法および基準

演習への参加状況や発表、最終報告の内容、それを元にしたレポートの水準を踏まえて、総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

伊藤修一郎 『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』 東京大学出版会、2011年。
山口裕之 『コピペと言われないレポートの書き方教室：3つのステップ』 新曜社、2013年。
戸田山和久 『新版 論文の教室―レポートから卒論まで』 NHK出版、2012年。
高端正幸・伊集守直編 『福祉財政』 ミネルヴァ書房、2018年。
駒村康平編 『貧困』 ミネルヴァ書房、2018年。
橘木俊昭編 『格差社会』 ミネルヴァ書房、2012年。
濱口桂一郎編 『福祉と労働・雇用』 ミネルヴァ書房、2013年。
埋橋孝文編 『生活保護』 ミネルヴァ書房、2013年。
井手英策編 『日本財政の現代史Ⅰ 土建国家の時代 一九六〇～八五年』 有斐閣、2014年。
諸富徹編 『日本財政の現代史Ⅱ バブルとその崩壊 一九八六～二〇〇〇年』 有斐閣、2014年。
小西砂千夫編 『日本財政の現代史Ⅲ 構造改革とその行き詰まり 二〇〇一年～』 有斐閣、2014年。

5. 準備学修の内容

事前に文献の指定箇所を読解することや自分の報告準備を入念にすること。履修者は自分のテーマと関係する論文や文献を見つけた上で、その内容を理解しなければならない。テーマの発見や研究方法について、参考文献の伊藤(2011)や戸田山(2012)が参考になる。

6. その他履修上の注意事項

人前で発表することや、文章執筆を過度に怖がる必要はありません。心配いりません、必ずできるようになります。

7. 授業内容

- 【第1回】 秋学期では、春学期同様に①発表の練習、②文献の輪読を行っていく。細かな内容は参加者の意向を踏まえつつ、決定する。第1回目に、秋学期の演習内容に関する相談、発表順番の決定等をする。
- 【第2回】 レポート完成に必要な要素について復習
- 【第3回】 先行研究の調査
- 【第4回】 参加者のテーマに関する報告
- 【第5回】 先行研究の報告と討論(1):先行研究から問題の立て方を学ぶ
- 【第6回】 先行研究の報告と討論(2):先行研究からデータと資料の扱い方を学ぶ
- 【第7回】 先行研究の報告と討論(3):先行研究から論文の構造を学ぶ
- 【第8回】 課題1:報告のテーマ、分析手法、使用データ・資料に関する発表
- 【第9回】 課題2:発表構造に関する報告
- 【第10回】 中間報告
- 【第11回】 日本の財政問題に関する討論:日本の財政問題に関する文献を参加者で読んだ上で、関連する論点について皆で討論をする。
- 【第12回】 日本の地方財政問題に関する討論:日本の地方財政問題に関する文献を参加者で読んだ上で、関連する論点について皆で討論をする。
- 【第13回】 最終報告の準備
- 【第14回】 最終報告(1)
- 【第15回】 最終報告(2)と今学期の復習と反省